

KIKAI REEFS

News Letter of KIKAI institute for Coral Reef Sciences
サンゴ礁サイエンスキャンプ2019 in 喜界島

世界一。
味わつた人は
発見を一度でも



サンゴ礁サイエンスキャンプ 2019 in 喜界島

参加者の皆さんへメッセージ

NPO法人喜界島サンゴ礁科学研究所
理事長 渡邊 剛(北海道大学)



感じること、見つけること、伝えること。 そして、残すこと。

皆さん、真剣に研究を取り組んで、僕が声をかけても振り向いてくれないくらい集中していました。本当に頑張りました。このキャンプで、何かを発見するということを感じてもらえたたらと思っています。

研究で大事なこと、それは、「感じること」「見つけること」「伝えること。」いくら素晴らしい発見をしても人に伝えることができないと、それは発見になりません。何故なら、自分では素晴らしいと思っていても、それは誰にもわからないからです。そして、この3つをクリアして初めて「残すこと」ができます。皆さんが喜界島で「本物」を感じてくれて、発見し発表を通じ、研究成果を人に伝えた。

喜界島に来て、自分で感じて自分で見て、伝えるから伝わるんです。でも、伝えたいことは、一言や二言では伝わりません。サイエンスキャンプに来てくれた皆さんは、今回で伝える力を身につけたと思います。次は、残す力なんです。研究者は、そのために命をかけています。具体的には論文を書き、時には、その作業に10年、数十年かかったり、あるいは、生涯かかってもできなかったりします。その、難しさ、そして楽しさが同時にわかったと思います。

一番感じて欲しかったのは、難しさ。

皆さんの顔つきがキャンプの期間中、徐々に変わっていくのを見ることができました。自分で見て、自分でやって、そこから出たことを言える人は、そんなにいません。皆さんは、このキャンプでその大切なプロセスを踏みました。

自分で出した結果は自分にとって、世界一なんです。「難しかった」「時間が足りなかった」など様々な想いはあると思いますが、皆さんがキャンプでやったことは一番なんです。それは、君たちしか持つて

いない結果で、君たちしか感じること、考えることができない結果です。では、それをどうやって残していくか。それは、人に伝えて評価されて残っています。評価されて残ったものが、皆さんが勉強している教科書になっています。ページ数がたくさんあり、様々な分野がある中で、ほんの数行の記述でもそこに至るまでに、どれほどの人がどれだけのフィールドに行き、結果を出してきたものが残っているということを実感してください。

このキャンプで皆さんがやったことも、世界一なのですが、他のチームの研究発表に対して投票を行い、自分以外の人をちゃんと評価しましたね。人の好き嫌いではなく、その結果・それをどう伝えてくれたか、わかったことに対して評価をしました。それがサイエンス、科学の力なんです。今回、その中の難しさがわかったということは、ものすごいことだと思います。そこに至るまでに、例えば大学において実験を始めてやっと実感するかもしれないことを、このキャンプの中で実感してくれたことが、一番感じて欲しかったことです。その中で興味を持ったことを続けたいと思えば、課題を教えてくれる先生方もいます。私たちと一緒に続けてみませんか?

今年の11月には、「日本サンゴ礁学会 第22回大会」が札幌であります。サイエンスキャンプに参加してくれたこども研究員も私たちの仲間として、来てくれることを願っています。そして、来年は「第14回 国際サンゴ礁シンポジウム」がドイツのブレーメンであります。私たちがサポートする、サンゴ塾[サンゴ礁研究プログラム]など、必要なステップは十分に用意されています。サンゴ礁は尽きることがない題材です。皆さんキャンプ中、本当に頑張ってくれました。キャンプが終わっても、一緒にやっていけたらいいな、というのが僕からのメッセージです。これからも一緒に頑張っていきましょう。

再会。始まりと、

去年も参加してくれた皆さんは、
このサイエンスキャンプで一年ぶりに再会。
初参加の皆さんも、
開講式が終われば、打ち解ける姿がありました。

体験する。

知りたいもの自体がその場にある喜界島。
フィールドワークでは、
探究心を持って自分でサンプルを探し出し、
生き物にも触れました。
皆さんのがここで見て、感じたことは、
自分自身で語ることのできる確かな経験です。



いざ、海へ。

サイエンスキャンプの海洋実習は、美しいサンゴ礁生態系が広がるハワイビーチ（あんなどうまい）。この日の海は透明度抜群！皆さんの目に喜界島の自然はどう映ったでしょうか？



友情。

仲間と過ごした時間はサイエンスキャンプの宝物のひとつ。
探究心を持って取り組む共同作業の中で生まれる友情は、
きっと、これから的人生に生きる大切な経験です。



発見したことを、どう伝えるか？
教室には皆さんの真剣な眼差しがありました。
発表に向けて班ごとに力を合わせます。



島と 触れ合う。

喜界島うるまエイサーの皆さんと交流タイム。
最後は全員で「六調」を踊りました。

伝える。

好奇心と探究心を持つて
調査・研究に挑んだ皆さん。
発表とポスターにはその成果がぎゅっと
詰まっていました。



未来へ。

修了式では、最優秀賞の発表が行われました。
結果に対して評価をする、それがサイエンスの力です。
サイエンスキャンプを通して未来へ羽ばたく皆さんを応援しています。





さらに探求した、 アドバンスドコース。

高校生が対象のアドバンスドコースは、さらにレベルアップしたカリキュラムで2人1組に分かれ、それぞれの研究テーマを進めました。ここから、「日本サンゴ礁学会 第22回大会」へステップアップします。

[アドバンスドコース研究テーマ]

- 喜界島の湧水の特徴
- サンゴ骨格の年輪解析
- ソフトコーラルの骨片観察
- ハマサンゴ属およびハナガサンゴ属の骨格形質計測
- サンゴ礁内の海水の炭酸系の解析
- 喜界島にマイクロプラスチックは漂着しているか?





答えのない勉強。

NPO法人喜界島サンゴ礁科学研究所
所長 / 副理事長 山崎 敦子(九州大学)



喜界島のサンゴ礁を舞台に、科学の第一線で活躍する研究者と未来を担う子ども達が、探究心を持って一同に集い、今年で5回目を迎えるサンゴ礁サイエンスキャンプ。様々な地域・国から小学3年生から高校生まで総勢54名の子どもたちが参加してくれました。皆さんの発表を聴いて、年々パワーアップしていると実感しました。先生方の情熱がキャンプの中で皆さんに乗り移って、皆さん真剣に自分の見たもの、経験したものから話している姿が素晴らしいと思いました。

サイエンスキャンプで目指しているのは、答えのない勉強に皆さんが慣れるということです。学校の

勉強をやっていると、テストがあってそのために答えを書かなければいけないですが、このキャンプにきて答えのあることは1個もなかったんじゃないかな?でも、それを考えられることができ、素晴らしいですし、考えて考えて頭が痛くなってしまった子もいたのですが、どのような経験や訓練をこれからも続けて欲しいです。それができるということは、皆さんにその能力がすでにある、ということです。今回の経験を生かして、皆さんそれぞれの夢を追いかけてもらいたいなと思っています。いつでも、喜界島のサンゴ礁科学研究所に帰ってきてください。

[サンゴ礁サイエンスキャンプ2019 in 喜界島]

主催:喜界島サンゴ礁科学研究所 / 共催:北海道大学・九州大学 サンゴ礁地球環境学研究室 / 協賛: JAPAN AIRLINES
後援:喜界町/喜界町教育委員会/鹿児島県/南海日日新聞社/奄美新聞/日本サンゴ礁学会/鹿児島大学国際島嶼教育研究センター/奄美海洋生物研究会/奄美群島広域事務組合/
喜界島観光物産協会/あまみエフエム ディ!ウェイヴ/関西喜界町郷友会/東京喜界会/鹿児島喜界会/環境省沖縄奄美自然環境事務所

KIKAI
REEFS

喜界島サンゴ礁科学研究所ニュースレター
KIKAIREEFS NO.10 2019年9月刊行
ISSN: 2433-3638
発行:特定非営利活動法人 喜界島サンゴ礁科学研究所

〒891-6151
鹿児島県大島郡喜界町大字塩道1508
TEL: 0997-66-0200
mail@kikaireefs.org